



ひな人形に囲まれて抹茶をたしなむ来館者

今年で3回目を迎える下妻市ふるさと博物館企画展「ひなに魅せられて」が2月8日から3月9日まで開催され、約2千人が訪れました。館内には古いもので江戸時代後期のおひな様や市民の手づくりのつるし雛など100体を超えるおひな様が展示され、来館者の目を楽しませていました。

また、3月2日には「博物館のひなまつり」と題したイベントに522人が来館し、フルートとバイオリン、キーボードの演奏や、大和・大宝・下妻の3保育園の年長園児53名による合唱、抹茶のおもてなしを楽しみました。

市内長塚から家族4人で訪れた40歳の女性は「昔のおひな様もあり、たくさんのおひな様に囲まれて子どもたちはしゃいんでいます。抹茶のサービスも美味しかった」と笑顔で話してくれました。

優雅なひな人形の世界 「第3回ひなに魅せられて」 下妻市ふるさと博物館企画展

子どもたちが普段できないことを体験させようと下妻市子ども会育成連合会が主催する冬の親子レクリエーション「雪とあそぼう」が3月2日、那須甲子青少年自然の家で開催され、市内の子ども会に所属する小学生親子71名が参加しました。

今回は、スキーで歩く自然散策に親子で挑戦。決められたコースを途中で転んでも親子で協力して立ち上がり、仲良くゴールを目指す姿が見られました。

また、参加者が3班に分かれ、親子みんなで力を合わせた「雪像づくり」では、50分という短い時間でしたが、恐竜や鯨、アニメキャラクターを作り上げ、いずれも力作ぞろいの大きな作品となりました。

帰る際には、雪あそびを惜しむように「楽しかった」「また行きたい」という声が上がっていました。



親子みんなで協力して大きな雪像を作り上げました

親子で雪とあそぼう

下妻市子ども会育成連合会
「冬の親子レクリエーション」



一人一人に卒業証書が手渡されました(千代川中学校)



学び舎に別れを告げる卒業生全員の合唱(大宝小学校)

笑顔と涙を心の糧に 新たな道へと旅立つとき

市内各小・中学校で卒業式

市内各中学校で3月12日、卒業式が行われ、457名の生徒が新たな道へと旅立ちました。

卒業式会場では、3年間の思い出があふれ出し、会場からすすり泣く声が聞こえてきました。いつも一緒だった同級生とも離れ、新たな人生の幕開けを迎えた卒業生は、涙を浮かべた瞳で、未来をしっかりと見つめていました。

また、3月19日には、市内各小学校で卒業式が行われ、460名の児童が、次のステージへと歩みを進めました。



一つ一つ丁寧に受粉させていきます

今年も美味しい 「下妻の梨」を期待

ハウス梨の花合わせ 梨生産者の受賞者紹介

肌寒さが残る中にも、やわらかな日差しに春を感じる3月10日、騰波ノ江地区のビニールハウスの中では幸水梨の小さな白い花が満開を迎え、花一輪ごとに人の手で受粉させる「花合わせ」の作業が行われました。

ハウス梨は、露地ものに比べて1カ月ほど早い7月初旬から出荷が予定され、今年も美味しい「下妻の梨」が期待されます。

3月7日には、全農茨城県本部農機総合センター(茨城町)で行われた平成25年度茨城県果樹生産力向上共励会表彰式の露地なし部門において、野村孝尚さん(桐ヶ瀬)が「農林水産大臣賞」を、施設なし部門で栗野寿広さん(若柳乙)が「茨城県知事賞」を受賞されました。

野村さんと栗野さんは、下妻甘熟梨の開発や梨生産のPRなどに取り組む「下妻の梨PRプロジェクトチーム」のメンバーで、「これからも美味しい梨を追求し、下妻の梨を盛り上げていきたい」と意欲をみせていました。



受賞を喜ぶ野村さん(右)と栗野さん(左)

下妻市のシンボル「砂沼」をきれいに保ち、桜が咲く頃には県内外から多くの観光客を迎えようと「砂沼をきれいにする運動」が3月9日、砂沼周辺で行われました。

市内の各種団体や砂沼周辺の自治会などから約500名が参加し、遊歩道や護岸から可燃ごみ460キログラム、不燃ごみ210キログラムと、膨大なごみが回収されました。

ごみ拾いに汗を流した60歳代の男性は「砂沼を歩く人に少しでも良い環境で散歩したり、ジョギングしてほしい。とてもきれいになって、ごみ拾いをやった自分でも気持ちがいい」と笑顔で話してくれました。



熱心にごみ拾いを行う参加者たち

下妻市のシンボル「砂沼」をきれいに 砂沼をきれいにする運動



芽吹く草木を見て所々に春を感じる参加者たち

「蚕飼地区まちづくり委員会」主催による「蚕飼地区ウォーキング大会」が3月9日、やすらぎの里しもつまを発着点として開催され、市内外から約150人が参加。日中は風が冷たいものの、日差しは温かく、参加者は春の気配を感じながらさわやかな汗を流しました。

コースは、7キロメートルと、5キロメートルの2つに分かれ、途中休憩をはさみながら各々のペースで歩きました。沿道や小貝川の遊歩道などに芽吹く草花や木々を楽しみ、1時間半から2時間ほどでゴールした後は、参加賞や温かい豚汁、おにぎりなどが振る舞われました。

筑西市から参加した小学4年の小泉金太郎くんは「歩くことが好きで、今回初めて参加した。疲れたけれど、歩いている途中で自然がたくさんあって気持ち良かった」と話してくれました。

歩きながら春を感じる 蚕飼地区ウォーキング大会